

絵仏師良秀

宇治拾遺物語

① これも今は となつてのことだが、

昔、絵仏師良秀といふ ありけり。者が うに吹い たそだ。

自分の 家

火災 発生 が

覆い被さる ように吹い たそだ。

火が 迫つてきた ので、

せめ けれ ば、

良秀は 逃げ出し 大通り 出でしまつた。
逃げ出でて、大路へ出でにけり。

あるが 良秀に 絵の 家の中に いらしゃつた。
人の描かする 仏もおはしけり。

また、衣 着ぬ 妻子なども、さながら 内にありけり。

そのまま 家の中 い た。

それも 知らず、ただ逃げ出でたるをことにして、

の よい

向かひの つらに立てり。

見る見れば、すでにわが 家に移りて、煙・炎くゆり が くすぶりだし て火がおさまつた。

見舞いに来 たけれど、さわがず。

まで、おほかた、向かひの つらに立ちて、眺め ければ、

良秀は少しも 憂て さわがず。

あさましきこと。」とて、人ども 来とぶらひ けれど、さわがず。

良秀は少しも 憂て さわがず。

「いかに。」と人言ひければ、向かひに 立ちて、

良秀は少しも 憂て さわがず。

家の焼くるを見て、うちうなづきて、時々笑ひ けり。

良秀は少しも 憂て さわがず。

「あはれ、しつる せうとく をしたこと ようかな。

⑩ 年ごろは 良秀は 長年の間 お見舞い とぶらひ に 来たる者 下手に 絵を 描いてた。
⑪ かくては 立ちたまへるぞ。 は たち これ だなあ どういうことか 言う。

⑫ あさましき こと かな。もの だなあ あやしげな靈 が つつき たまへるか。
⑬ 「なんでふ もの」 の つく べき が つつき たまへるか。 は たまへるぞ。 だなあ あやしげな靈 が つつき なさつた だなあ どういうことか 言う。

⑭ と 言ひ けれ ば、 と 言ひ た ので、 だなあ あやしげな靈 が つつき なさつた だなあ どういうことか 言う。

⑮ 「なんでふ もの」 の つく べき が つつき たまへるか。 は たまへるぞ。 だなあ あやしげな靈 が つつき なさつた だなあ どういうことか 言う。

⑯ と 言ひ けれ ば、 と 言ひ た ので、 だなあ あやしげな靈 が つつき なさつた だなあ どういうことか 言う。

⑰ 今見れば、 かうこそ 燃えけれ と、心得つるなり。 と、心得つるなり。 は たまへるか。 は たまへるぞ。 だなあ あやしげな靈 が つつき なさつた だなあ どういうことか 言う。

⑯ これこそせうとくよ。この道を立てて世にあらむには、 と、心得つるなり。 は たまへるぞ。 だなあ あやしげな靈 が つつき なさつた だなあ どういうことか 言う。

⑰ 仏だに だけでも 上手に 申し上げた ならば は たまへるぞ。 だなあ あやしげな靈 が つつき なさつた だなあ どういうことか 言う。

⑱ わたうたち こそ、させる 能も おはせ お前さんたち は これといった 才能 お持ち合わせにならない ので、 は たまへるぞ。 だなあ あやしげな靈 が つつき なさつた だなあ どういうことか 言う。

⑲ ものをも惜しみたまへ。」と言ひて、あざ笑ひてこそ立てりけれ。 は たまへるぞ。 だなあ あやしげな靈 が つつき なさつた だなあ どういうことか 言う。

⑳ そののちに や、良秀がよぢり不動とて、今に人々めで合へり。 は たまへるぞ。 だなあ あやしげな靈 が つつき なさつた だなあ どういうことか 言う。